

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600537		
法人名	社会福祉法人 希望の里		
事業所名	グループホームむつみ (1階)		
所在地	苫小牧市字樽前159-198		
自己評価作成日	平成27年12月14日	評価結果市町村受理日	平成28年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念は、入居者の皆様が、住み慣れた土地である苫小牧で穏やかに安心して生活を送っていただけることと掲げています。この理念に基づき、日常生活支援はもとより、定期的なかかりつけ医療機関への受診は職員による送迎支援を行い、細かな日常生活の様子や変化を上申・相談し包括的なケアを実践しています。
敷地の側には小川が流れており自然環境にも恵まれていることから、周辺を散策したり畑や花壇、プランターによる花の育成を楽しむことができます。
建物については皆様にくつろいでいただけるよう畳の間を設けております。また、トイレは5か所設置しており、お身体の状態に合わせケアが必要な方も安心してご利用いただくことができます。
ご家族様へは、隣接したゲストハウスもあり、遠方からの来訪にも対応可能です。
入居者様のみならず、ご家族様にも安心していただけるような介護サービスを目指し、常に意識・知識の向上に努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0173600537-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成28年2月10日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

樽前山の麓に位置し、近くに公園、温泉、小川の清流があり、鹿が散歩するなど、豊かな自然環境に恵まれている。隣接して、同法人が運営する障害者支援施設があり、行事、災害対策などで連携して相乗効果を上げている。鉄筋コンクリート造り2階建ての建物は、津波などの自然災害時にも初期対応できるよう作られ、どの場所でも自然の光を程よく取り込んで明るく、居間は家庭的な雰囲気、ひな人形、行事などの写真、手作りの作品を飾って、温・湿度も適正に調整されている。職員は優しく明るく、利用者一人ひとりに寄り添い、利用者は、貼り絵をしたり、テレビを見たり、会話をするなど思い思いに穏やかにのんびりと過ごしている。又、4畳半の畳のスペースでは洗濯物たたみをしたり寛ぐことことができる。利用者は地域の祭り、町内会の作品展示を見学するなど地域と交流し、法人の祭りなどに地域住民が参加し、ボランティアが来訪して相互に交流している。利用者の生活などの様子を手紙で家族に知らせ、家族来訪時などに要望を聞いて運営に反映させている。家族が宿泊できるゲストハウスを設け、遠方の家族や知人が来訪しやすい環境が整えられている。ホーム長は職員育成に努め、研修や講習会の参加を職員に促し、毎月内部研修を行って、サービスの向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフの名札と共に携帯し常に意識しながら業務するように努めている。また、ホールに理念を掲げ、家庭的な雰囲気の中、住み慣れた場所で穏やかに過ごしていただけるよう支援している。	事業所理念を実践の柱と自覚し、玄関、ホールに掲示すると共に、名前と同じホルダーに携帯して職員で共有し、「家庭的な雰囲気、住み慣れた場所、穏やかな生活の実現」をサービスの基本として支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の施設や町内会とのかかわりを持ち、町内会の行事に参加することで交流をはかっている。	町内会に加入して、地域の清掃、地域のお祭り、法人の祭などで地域と交流し、ボランティアが来訪し交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談があった際は随時対応ができるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員の他、地域の方、ボランティアの方、ご家族に参加を促し、活発な意見交換ができるように努めている。	市職員、地域包括支援センター職員、町内会長、家族などが参加し年6回実施している。運営状況報告、行事報告、情報交換などを行って意見や助言を得て、サービス向上に活かしている。4回は同法人の関係事業所「グループホームなごみ」と合同で実施している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を活用し相談するようになっている。また、不明な点は電話等で確認するようになっている。	市の担当者、地域包括支援センター職員とは、利用者に関する手続きなどで相談したり指導を受けたり、情報交換を行い、電話、運営推進会議で助言、情報を得て協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	適宜、外部研修や内部研修で常に意識できるようにしている。身体拘束をしないマニュアルを作成し、職員間で意識の共有をはかっている。	外部研修に参加し、伝達研修・内部研修を行って身体拘束をしないケアに努めている。センサー、チャイムなどによる見守りは行っていない。徘徊時はSOSネットワークで関係機関との協力体制ができています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や外部研修、スタッフ間での話し合いの中で意識を高めることができるよう努めている。		

グループホームむつみ（1階）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度を活用されている入居者様もあり、入居者様の生活状況に応じ対応を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を心がけるとともに、不安の無いようご家族様と会話の機会を多く設けるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、要望を聞くことができる体制を整えている。都度、意見・要望は検討するようにしている。	利用者とは日常の会話などから意見・要望の把握に努め、家族に利用者の生活の様子などを手紙で知らせ、来訪時の会話、運営推進会議参加時などの意見・要望を聞いて、職員間で話し合いを行い、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やその他日常での会話の場面を通し、話しやすい雰囲気を作っている。	ホーム長、管理者は、職員が意見を言いやすい雰囲気を日頃から作り、ユニット会議、全体職員会議で意見、要望を話し合い検討して運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休み希望や有給休暇を取得できる体制になっている。職員の残業はほとんどない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や内部研修を通し、情報の共有を行っている。また資格取得等についても相談を受け、都度アドバイスを実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会等で他のグループホームと連携している。		

グループホームむつみ（1階）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の聞き取り、入居後のアセスメントで入居者様が困っていること、介助が必要な部分を明らかにしながら良好な関係を構築できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご不安なことについて、いつでも気軽にお問い合わせを頂ける体制を確保している他、連絡を密にとることで信頼関係を築くことができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分に行い、本人様・ご家族様の希望に添った相談支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の能力を見極め、日々生活の中で自然に介助者が過ごし、入居者様が同居者として負担にならないように配慮している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の思いをスタッフ間にて共有し、ご家族とスタッフが同じ思いでご本人様を支えることができるよう心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様やご家族様からの情報をもとに、馴染みの方や場所との関係が途切れないよう支援を行っている。	利用者の生活歴を把握し、買物、美容室、家族との外出など馴染みの関係が途切れないよう支援している。知人、友人が訪ねて来た時は、お茶を出すなどして居室でゆっくり話してできるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入りながら良好な関係を構築できるように努めている。必要に応じ、レクリエーションや外出など気分転換をはかっている。		

グループホームむつみ（1階）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ連絡し、相談や面会を行い関係性を継続できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや日々の関わりの中でご本人様の意向や思いを把握し、日常生活におけるケアを実践している。	日々の会話、表情など日常生活の中で、又、くつろいでいる開放感のある時を活用して、個々の思いや意向を把握し職員で共有して、希望や意向に添うように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族様との初期アセスメントの他、日々の関わりの中で把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の様子や言動を記録することで情報を共有し、引継ぎを行い確認している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議や日々の会話の中でご本人様の状況を共有し、定期、または変化があった場合にモニタリングを実施し、状況にあったサービス計画を作成するように努めている。	利用者、家族の意向を反映させ、3ヶ月毎にふり返り、サービス担当者会議、全体会議で協議して、6ヶ月毎に現状に即した介護計画を作成し、家族の確認印を得ている。状況に変化があればその都度見直すこととしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を行いスタッフ間にて情報を共有できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて柔軟に対応することのできる体制を確保している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自然に囲まれた立地を生かし、農作物の育成や花壇活動等を安全に行うことのできる環境を整備している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医を重視している。希望があれば通院支援を行い、生活の様子を相談し必要な医療支援を受けることができるようにしている。	本人、家族の希望に添ったかかりつけ医に受診できるよう支援している。希望があれば職員が付き添い、医師に生活の様子を報告・相談し、結果を家族に報告している。	

グループホームむつみ（1階）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、訪問看護ステーションの看護師に相談し、アドバイスをいただいている。必要に応じて医療機関への受診支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から医師や相談員との良好な関係を築き、入院された際にも安心して治療を受けていただけるよう連携に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に聞き取り、説明を行っている。また、入居者様のお身体の時期を見ながら再度意向の確認を行っている。	契約時に家族、利用者に「重度化した場合の対応に係る指針」に基づき説明している。重度化が認められた時点で、事業所の体制を確認してもらい、本人、家族、医師と話し合いを持ち、看取り、医療機関に入院する等、希望に添えるよう支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所にはAEDを設置している。法人内での研修等で事故発生時の研修を実施している。また、緊急時のマニュアルを整備している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、避難方法の検討を行うとともに、町内会および近隣施設との連携に努めている。	年2回避難訓練（夜間想定・日中想定）を障害者支援施設と連携して実施している。運営推進会議参加者の参加を得て意見を反映するよう努めている。食糧、水など備蓄している。	一時避難場所については、火災、自然災害（地震、津波、火山の噴火等）など災害別避難場所を明確にして指定し、マニュアルを整備することを期待する。また、通信網が破壊された時を予想して、家族等に一時避難場所を予め通知することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様への尊厳やプライバシーに配慮し、常に丁寧な声かけができるよう指導している。	言葉かけに気をつけ、トイレなどの声かけには耳元で丁寧に、尊厳や誇りを損ねないように努めている。職員同士で注意し合って一人ひとりの気持ちを大切に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で都度入居者様の希望を伺いながら対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様のペースを大切にし、ゆっくりと支援することを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	パーマや衣類の買い物、化粧など希望に沿った対応を行っている。		

グループホームむつみ（1階）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に食べやすい形態で提供している。配膳・下膳、食器洗い等出来ることをしていただいている。	食事メニューは、近隣施設の栄養士が利用者の希望などを聞いて作成し、職員が調理している。利用者は能力に応じ、配膳、下膳、食器洗いなどを行っている。畑で採れた野菜が食卓を飾り、漬物を作って食事を楽しんでいる。誕生日などの行事食や希望により外食をすることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	近隣施設の栄養士に相談しながら献立を作成し、その方の状況や病状に合わせて献立・内容を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握するため記録を整備し、それぞれ必要に応じ排泄支援を行っている。	個々の排泄パターンをチェック表や表情、態度などから把握して、個人の羞恥心、尊厳に配慮して、適時にさりげなく誘導し、排泄の自立に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が精神面へ影響することもあるため、飲水量に注意している。状況に合わせ、下剤の調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様のペースでゆっくりと入浴していただくことができるよう配慮している。	入浴は、同性介助で週3回を基本としているが、希望があれば毎日の入浴も可能としている。入浴を嫌う場合には無理強いせず、時間をおいて声掛けするなど工夫をしている。家族と一緒に、近くの温泉入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の状態やペースに合わせて過ごしていただけるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬はファイルして必要時に確認している。服用時にお名前を確認し、間違いがないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品を楽しまれる方、家事が好きな方、塗り絵が好きな方など、個々の希望に応じ柔軟に対応し、楽しみを持っていただいている。		

グループホームむつみ（1階）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その都度ご本人様の希望に添って外出していただけるよう配慮している。また、ご家族様への相談も随時行っている。	四季を通じて、天候状況、気温等自然環境を把握し、散歩したり、日光浴、畑仕事、買物、ドライブ、外食等の外出支援を行って、日常の生活に潤いに変化のある生活を提供するよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の希望に応じた支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	都度対応をさせていただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには行事などの写真を掲示し、回想できるようにしている。また、季節に合わせて、掲示物を変更し季節の変化を感じていただくことが出来るよう工夫している。	窓は広く自然採光が適度にあり、明るく開放感がある。広い空間には、テーブルやソファが配置され、季節感を活かしたひな人形、行事などの写真、手作りの作品を飾って家庭的な雰囲気、利用者は、貼り絵をしたり、テレビを見たり、会話をするなど思い思いに穏やかにのんびりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室スペースをご用意している他、ソファで寛ぎながら、入居者同士で会話を楽しませている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた日用品を持ち込んでいただき、居室空間を使いやすいように活用させていただいている。	ベット、テレビ、タンス、洗面台が備えつけてあり、使い慣れた家具、仏壇などを持ち込み、思い出の写真を飾って居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・居室が分からない方もおり、混乱しないよう案内を掲示している。		